

みずな

京都が原産の伝統野菜。緑黄色野菜で、βカロテンが豊富。他にもビタミンCやカルシウムなど、栄養がバランスよく含まれています。

8月の農作業

平成15年発行：
JAハリマ「活き活き健康野菜づくり」より

作型

耐寒性はかなり強い。暑さには弱いので早まきしすぎない。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名
秋 植 え												白糸の滝、白鯨 白茎千筋京水菜 (早生、中生、晩生)	

○：種まき △：植え付け ■：収穫

畑の準備・播種

土づくり a当たり	
堆肥	300kg
セルカ(有機石灰)	10kg
植え付け1ヶ月前に土と良く混合	
元肥 a当たり	
醗酵鶏糞	30kg
畝立時施用	

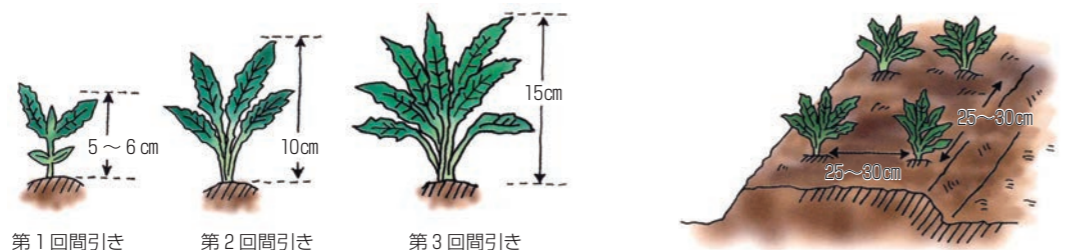
- ・畝幅100～120cm
- ・株間25～30cm
(2条間30～40cm)

種まき(60～80ml準備する)

- ・条間30cmで2列のまき溝をつくる。
- ・まき溝は幅15cm、深さ4～5cmを目安とする。
- ・薄まきをする。(種子間隔は4～5cm)
- ・覆土の厚さは0.5～1.0cm
- ・まき床が乾燥しないよう切わらをする。
- ・セルトレーに種まきした場合、本葉3～4枚で定植する。(株間25～30cm 条間30～40cm)

間引き

- ・葉がひどくちぢみ、黄化して育ちの悪いものから間引く。
- ・第1回 本葉2～3枚の頃(草丈5～6cm)
- ・第2回 本葉4～5枚の頃(草丈10cm前後)
葉がふれないうちに間引く。定植苗として利用する場合、根鉢を付け、30cm(2条植)株間30cm
- ・第3回 本葉7～8枚の頃(草丈15cm前後)
最終の間引きの株間は早生で25cm、晩生30cmを目安とする。
- ・追肥は第2回と第3回間引き後に、野菜専用肥料を4～5kg/a施用する。



防除

病害虫	耕種防除	薬剤防除
アブラムシ類	光反射テープを畝上に張る 寒冷紗、透明不織布で被覆する	アディオン乳剤 3000倍 14日前まで 1回
ヨトウムシ	早期発見し、分散前に捕殺する 寒冷紗、透明不織布で被覆する	アフーム乳剤 1000～2000倍 7日前まで 3回

収穫

- ・早生種は耐寒性が劣るので、年内をめどに収穫する。
- ・晩生種は3月頃まで収穫することができる。(パスライト等のべたがけをする)

裏面は雑草図鑑 カヤツリグサ・イヌビユを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.292 平成27年8月18日発行

雑草図鑑

カヤツリグサ・イヌビユ

8月の農作業

カヤツリグサ

極端な日陰をのぞいて畑地、空き地、道端などいたるところに発生する一年草。茎を両端から裂いていくと4本に分かれて四角形の形ができる子どもの遊びを、蚊帳を吊るのに見立てて名前が付けられた。種子で繁殖するが、種子の休眠は非常に強く寿命も長い。好光性のため光がないと発芽しないので、出芽の最大深度は1cm。発生は春から夏まで。生育初期には非常に細い線形の葉をだすが、後で葉になるほど少しずつ長さや幅を増していく。茎は三角形で株元から2～3本の堅い茎を立てる。草丈は30～60cmで、茎葉には独特の香りがある。登熟期になると茎の先端に、葉に似た包葉を3～5個放射状に伸ばし、その中央から花柄を出し、各花柄の先に数個の花穂をつける。



カヤツリグサ(花穂)

防除のポイント

好光性で光がないと発芽しないことから、中耕・培土作業で土中に深く埋め込むのも効果的である。除草剤は移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を生育期に散布する。



カヤツリグサ(生育初期)

カヤツリグサ(生育中期)

イヌビユ

日当たりのよい畑や道端、休耕田、草地などにみられるヨーロッパ原産の一年草。種子で繁殖する。生育期間は春先から晩秋まで。茎は直立するか、根元から分枝して横に伸びる。草丈は30～60cm。夏の畑地では発生量の多い雑草の一つ。葉はひし形状の卵形で先端がくぼむのが特徴。茎、葉ともに無毛で、夏に茎の先や葉わきに円柱状で緑色の花穂をつける。花穂には雄花と雌花が混じってつく。花穂は太く短い。同じ仲間にアオビユ、ホナガイヌビユなどがあり、草丈が大きくなることから近年ではイヌビユを圧倒している。イヌビユの仲間は元々野菜として栽培されており、日本でも薬効があることから民間薬として利用されたり、山菜として食べられている。



イヌビユ(開花期)

防除のポイント

発生前に土壌処理剤で防除する。発生してしまった場合は、移行性の茎葉処理剤ラウンドアップマックスロード(作物によって使用方法が異なるため要確認)を作物に掛からないように散布する。



イヌビユ(芽生え期)

イヌビユ(生育中期)

※農業使用の際は、使用方法・使用時期をよく確認して使用しましょう。

裏面はみずなを掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.292 平成27年8月18日発行